

浜屋敷

吹田歴史文化まちづくりセンター



(注)お車でのご来館はご遠慮ください。

最寄駅 JR京都線 吹田駅徒歩15分
 阪急京都線 相川駅徒歩10分
 阪急バス 高浜神社前徒歩5分

浜屋敷ご利用案内

〒564-0025 大阪府吹田市南高浜町6-21
 TEL: 06-4860-9731 / FAX: 06-4860-9725

開館時間 / 午前9:00~午後10:00
 休館日 / 12月29日~1月3日
 (他、施設点検の臨時休館日があります。)

観覧 / 無料
 貸室 / 有料 (要申し込み)

発行: 吹田歴史文化まちづくりセンター 令和元年(2019年)9月 発行部数: 2,000部(1部あたり4.0円)

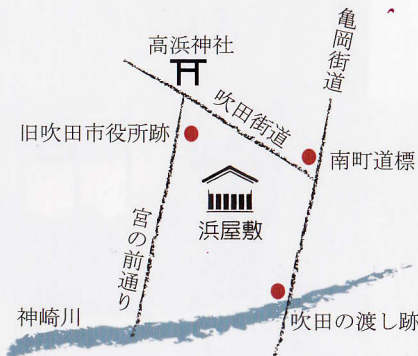
hamayashiki.com

浜屋敷って何？

浜屋敷は江戸時代吹田村の旧庄屋敷です。吹田市が寄贈を受け、歴史と文化のまちづくりに関わる文化活動や交流の場として活用するため、改修再整備して2003年6月、吹田歴史文化まちづくりセンターとして生まれ変わりました。2004年公募で選ばれた愛称「浜屋敷」は高浜町と南高浜町の「浜」に「お屋敷」を重ねたもので、やさしい響きで親しまれています。

浜屋敷かいわい

このあたりは農村地帯でありながら1200年前の昔から、京阪神を結ぶ神崎川の水運、亀岡街道・吹田街道の陸路の交差点でした。はじめは津として、江戸時代からは在郷町として発展してきました。南200mの所にある神崎川には「吹田の渡し跡」があります。かつてこの屋敷も過書株を取得し河川運輸に携わっていました。また北側には旧吹田市役所の跡もあります。



主屋

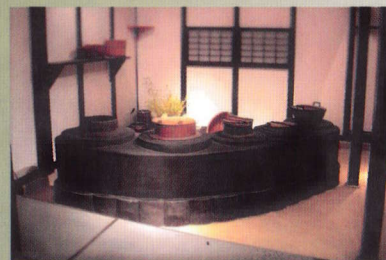
日本の伝統的建築技術によって造られた主屋は、敷地内で「くらし」の中心的存在をなす建物です。畳の間で構成された「田の字型」の間取りが特徴で土間を併せ持っています。屋根は入母屋造りで落ち着いた雰囲気を感じています。



主屋 和室

土間とへっつい

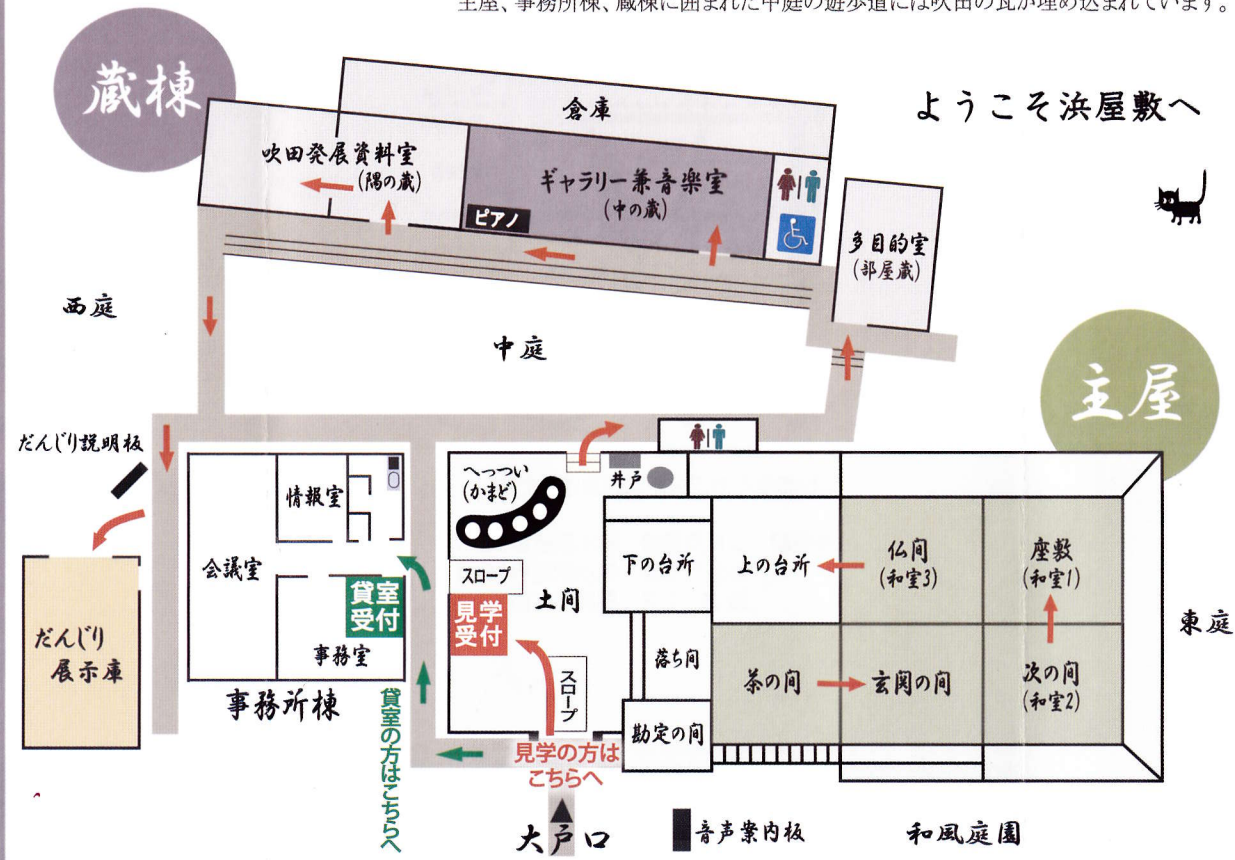
土間はタタキとも呼ばれ大戸口側（オモテ）には年貢米などが置かれていました。その反対側（ウラ）にはかまど（シリ）（流し）井戸が据えられています。かまどは大阪府内では「へっつい」と呼ばれていました。浜屋敷のへっついには五口の焚口が大きい順にぐるりと円弧状に連なり、美しい勾玉形となっています。



へっつい(かまど)



主屋、事務所棟、蔵棟に囲まれた中庭の遊歩道には吹田の瓦が埋め込まれています。



ようこそ浜屋敷へ

Kura 蔵棟

蔵棟三棟は「部屋蔵」。「中の蔵」「隅の蔵」からなっています。それぞれの蔵は多目的室、ギャラリー、兼音楽室、吹田発展資料室として活用しています。

多目的室

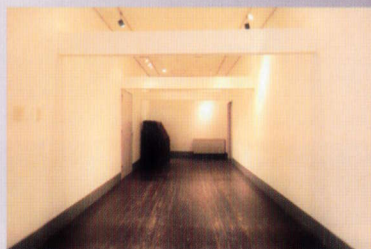
昔の梁や板張りの床をそのまま残した一室で、様々な用途で使用できます。

ギャラリー兼音楽室

作品展示や音楽の練習、また小さなコンサート会場に使えます。ピクチャールール、アップライトピアノを設置し、防音設備も完備しています。

吹田発展資料室

吹田が船運や交通の要衝として発展してきた様子や、当時の人々の暮らしについて展示や映像で紹介しています。また吹田の民話を紙芝居風朗読の映像付きで楽しめます。



ギャラリー兼音楽室



過書船艦札(複製)

吹田に残るだんじりは江戸時代に建造され建造年代や制作にあつた大工、彫り物師の名が書かれた棟札や墨書があること、また建造時の姿や部材がかなり残っていることは特筆に値します。また現在、曳行できるものが7台も残されているのは大阪府内でもめずらしいことです。前述7台のだんじりは吹田市有形民俗文化財に指定されています。展示されるだんじりは定期的に入れ替わります。

「だんじりのある町」
金田町、川面町、神鏡町、六地蔵、西奥町、浜の堂、都呂須町



Danjiri だんじり 展示庫